

令和2年度 産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点 共同利用・共同研究
委員会での指摘事項に対する対応

令和2年度の共同利用・共同研究委員会にて委員の皆様からご意見・ご指摘いただきました事項について、下記の通り対応させていただいております。

- ① ハイブリッド型で開催する場合、バックアップする体制が必要。少なくともアルバイトの学生を雇用し、システマチックに開催する体制をつくったほうが良いのではないか。

(対応済) 令和2年度は拠点事務でバックアップを行いました。令和3年度は学生のアルバイトを雇用し、オンライン・ハイブリッド型の研究集会のZoom操作補助を行う予定です。

- ② 企業の方はZoomが使えないという人がいた。Webexはほとんどの企業が使えるが、有料なのでそこに費用を充てるという可能性はないか。

(対応済) IMIの別経費にてWebexを購入済みで、使用していただくことが可能です。ただし共同利用としてはZoomでの運用を推奨します。

- ③ 短期共同研究の旅費の上限を引き上げる可能性はないか。研究集会をオンラインであるのであれば、経費が削減される可能性があり、もし経費が余の見込みがあるのであれば、短期共同研究のほうの旅費の上限は上げて良いのではないか。

(対応済) 公募要領にて短期共同研究は国内旅費として支援額を60万円から100万円程度を上限にすると変更しました。また、予算に余裕があることもあり、研究集会II、短期研究員も上限をそれぞれ100万円程度、40万円程度に増額しました。さらに、審査の評価点に応じて支援額の傾斜配分を行いました。

- ④ 研究集会I、IIでチュートリアルのような内容もお認めし、公募要領に書くか。

(検討中) 令和4年度の公募要領から記載することを検討します。

- ⑤ オンラインまたはハイブリッド型研究集会は録画したものを期間限定にてオンデマンドで見られるようにするか。録画許可についてどのように対応するか。

(対応済) 録画およびオンデマンド配信の許可が得られたものについて、オンデマンド配信しております。

- ⑥ 若手研究の短期研究員について、講演をしてもらうというのをむしろ必須にすると業績にもなるので、何か義務をつけることによって目的がはっきりするのではないか。若手の人がIMIにお呼ばれして、みんなの前で発表したということが後で書けるよう

な形の研究集会、発表の場を設けるといいのではないか。少しフォーマルな感じで。新しいセミナーか何かつくれば良いか。また、短期招聘研究員などのような名称の変更についても検討すれば良いのではないか。

(検討中) 令和 4 年度の公募から何らかの方向性を打ち出すかどうか、検討を進めます。